

取扱説明書

**テクセル
マグネットポンプ**

MTA

-101/125/150 形



セイコー化工機株式会社

このたびはテクセル耐蝕ポンプをお買いあげいただきまして誠にありがとうございます。
 このポンプは耐食性を必要とする用途に設計・製作していますが、使用条件を変更したり
 誤った取扱いをすると思わぬ事故の原因となることがあります。
 この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用くださいますようお願いいたします。

目次

	ページ
1. 到着時の確認事項	1
2. 安全にお使いいただくために	2
1. 運搬	2
2. 確認	2
3. 適用	2
3. 保管	2
1. 短期保管（3ヶ月未満）の場合	2
2. 長期保管（3ヶ月以上）の場合	2
4. 据付けと配管	3
1. 据付け	3
2. 配管	3
5. 試運転	5
1. 開始時の注意	5
2. 運転中の注意	5
3. 停止時の注意	5
4. 休止時の注意	5
5. その他の注意	5
6. 保守点検	6
1. 日常点検	6
2. 定期点検	6
3. 軸受の摩耗限界	6
7. 分解	7
1. 分解における注意点	7
2. ポンプ分解準備	7
3. 分解	7
4. 組立	9
5. 主軸の脱着方法	9
6. ベアリングの交換方法	9
7. フロントスラスト／リアスラストリング／ マウスリングの交換方法	10
8. シャフトサポートの交換方法	10
8. 部品注文について	10
9. MTA 形断面図	11
10. 配管許容荷重	12
11. 事故現象と原因	13
水量・圧力不足	13
揚水不能	14
振動騒音	15
過電流	15

1. 到着時の確認事項

ポンプがお手元に届きましたら、直ちに下記事項をご確認ください。

1. ポンプに取り付けられている銘板がご注文仕様と異なっていませんか。
2. 付属品は揃っていますか。
3. ボルト、ナット類の緩みはありませんか。
輸送中にゆるみが生じる場合がありますので、試運転前に必ずケーシング、ドレンボルトのゆるみの有無を確認してください。
4. 外観上、輸送時の破損は見られませんか。
5. 電動機の外扇カバーを外したのち、外扇が手で軽く回りやすいか。重く感じられたり回らない時は、輸送時に内部が破損している可能性があります。

不都合を発見した場合には、至急に注文先か弊社までご連絡ください。

2. 安全にお使い頂くために

マグネットポンプは、高速・高圧で使用する機器と同様に、誤って使用すると非常に危険です。また、腐蝕性や危険性の高い薬液を取扱う場合は特に注意してください。

この取扱説明書記載の「警告」は、財産と生命への危険を避けるために必ず守ってください。

1. 運 搬

ポンプに取付けているアイボルトでポンプ全体を吊り上げられますが、安全のために必ず電動機側に吊り上げ用ロープ（ナイロンスリング）を掛けて作業を行ってください。



警 告

- ①電動機に取り付けられているアイボルト、もしくはフック用穴は電動機重量のみのサイズになっていますので、これらを利用してポンプ全体を吊り上げることは禁止してください。
- ②特殊ベース（契約以外・規格外）をセットした場合は、アイボルトを利用して吊り上げることは禁止してください。

2. 確 認

ポンプの据付け、またはメンテナンス後に試運転を行う場合は、必ずドレンボルトやケーシングボルトなどが締まっていることを確認の上行ってください。

3. 適 用

このポンプは契約時の用途と仕様において、設計・製作されています。それ以外の用途に使用される場合は、必ず注文先が弊社までご相談ください。

3. 保 管

ポンプは運転が開始されるまでの間、下記の要領に従って保管中の保守・点検をお願いします。

1. 短期期間（3ヶ月未満）の場合

- (1) 口径ワッペンが配管接続まで剥がさない。
- (2) 保管場所は室内とし、湿度の高い場所は避けて通風のよい場所とし、雨水の吹き込み、雨漏り、水溜り等にも十分注意を行う。
- (3) 電動機の端子箱のケーブル貫通部には、ガムテープ等により穴を塞ぎ、塵埃等の進入を防ぐ。
- (4) 他機材の落下、他機器の移動時の接触等により、ポンプが損傷を受けるおそれのある場所は避け、それができない場合は十分な保護を行う。
- (5) ポンプの上に重量物を置かない。
- (6) 冬季には結露等による凍液が発生するおそれがあるため、ドレン部より液抜きを行う。
- (7) 一度、ご使用されたポンプを保管される場合は、次の作業をお願いします。
 - ◎清水による、ポンプ内の洗浄。
 - ◎ポンプ吸込口と吐出口からの異物侵入防止措置。
 - ◎ポンプ運転期間と停止期間の合計が1年を経過して運転を再開する場合、ガスケット交換と内部点検。

2. 長期保管（3ヶ月以上）の場合

- (1) 前項「短期保管」の項(1)～(7)
- (2) 電動機の絶縁部が吸湿し、絶縁抵抗が低下することがあるので、入荷時に絶縁抵抗を測定して記録し、定期的に確認を行う。
低下している場合は、正規の方法により乾燥させた後、防湿に十分注意する。
(添付、電動機取扱説明書をご参照ください。)



警 告

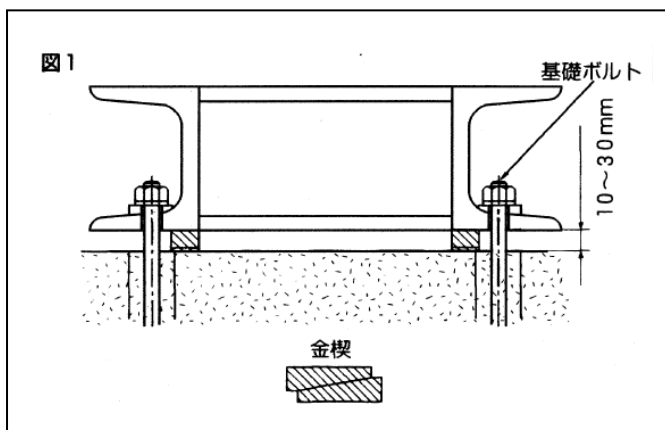
電動機の絶縁不良によりポンプを運転した場合は、漏電等の事故が発生することがあるので、絶縁抵抗は必ず測定してください。

- (3) 1ヶ月に1度の割合で電動機の外扇カバーを外したのち、外扇カバーを手で回す。
- (4) 1年以上経過したのち運転を行う場合は、ガスケットを必ず新しいものと交換する。

4. 据付けと配管

1. 据付け

- (1) コンクリート基礎の上にポンプを据付けるのが原則です。それができない時は、鉄骨の上に据付けてもかまいませんが、運転中に振動がでないようにして下さい。
- (2) 基礎ボルトはベッドのボルト穴に挿入し、ナットをボルトの頭一杯に取付け、基礎ボルト穴中に垂下させておきます。
- (3) コンクリート基礎の場合は、コンクリート面とベッド下面との間に楔を4ヶ所挿入して、ポンプの水平を出します。
- (4) 水平方向の確認は、ポンプ吐出フランジの上面で水準器を用いて、全方向の確認を行って下さい。
- (5) 水平の確認後、目の細かいモルタルをベッドとコンクリート基礎の間と、基礎ボルト穴に詰め込み、全てが一樣に密着するようにします。(図1)
- (6) 数日間放置し、モルタルが完全に硬化した後、基礎ボルトのナットを締め付けて下さい。
- (7) 鉄骨の場合、ボルト・ナットによる締めつけでも可能ですが、前述と同様に十分に締めつけて下さい。



2. 配管



警告

配管接続をする前に、口径ワッペンが剥がされていることをかならず確認してください。

(1) 配管荷重

- 1) ポンプ吸込口・吐出口に接続している配管は、ポンプに近い場所でサポートをとり、固定して下さい。
- 2) 特に金属製配管を接続する場合は、直接接続せずフレキシブルジョイントを取付けて下さい。
- 3) ポンプにかかる配管荷重は、P12の配管許容荷重に記載されている最大許容荷重以内にして下さい。

(2) 吸込配管 (図2)

- 1) 吸込配管は極力短くして下さい。但し、ポンプ分解時に必要なバルブと短管(0.3m程度)を取付けて下さい。
- 2) 吸込配管のフランジ継手部分は極力少なくして下さい。
- 3) 吸込配管はNP SHA-V に大きな影響を与えるので、配管口径・長さ・付属物については十分な検討をして下さい。
- 4) 配管には、空気溜りができないように吸込面からポンプに向かって上り勾配(1/50程度)になるようにして下さい。但し、押し込み配管となっている場合はポンプに向かって下り勾配として下さい。
- 5) 吸込水槽には防塵設備(スクリーン)を設けて下さい。
- 6) 吸込管の先端は、ポンプ運転中に空気を吸込まないように十分深くして下さい。
- 7) 吸込側に取付けるバルブは、呼び水時に空気溜りができる場合がありますので、ハンドルを水平方向にして取付けて下さい。
- 8) 曲がり部は数を少なく、かつ、ポンプの吸込口に近接して設けないようにして下さい。
- 9) 異形配管を用いる時は空気溜りができないように偏心形を用いて下さい。同心形を用いる場合は大口径側に、空気抜きを設けて下さい。
- 10) 同一タンクより複数台ポンプを取付ける場合、それぞれの吸込配管は独立した配管として下さい。

(3) 吐出配管

- 1) 吐出配管には必ずバルブを取付けて下さい。
- 2) 吐出側においても空気溜りは、有害な作用を起こす場合があるので、必要に応じて空気抜きを設けて下さい。
- 3) 吐出配管がサイホン状となる場合にも、その最高部は必ずポンプの締切揚程以下として下さい。
- 4) ポンプ停止時における逆流の防止や、実揚程が高い場合には水撃防止を目的とし、逆止弁を設ける必要があります。但し、起動時に逆止弁の下方に空気抜き溜りができている場合がありますので空気抜きを設けて下さい。(図3)

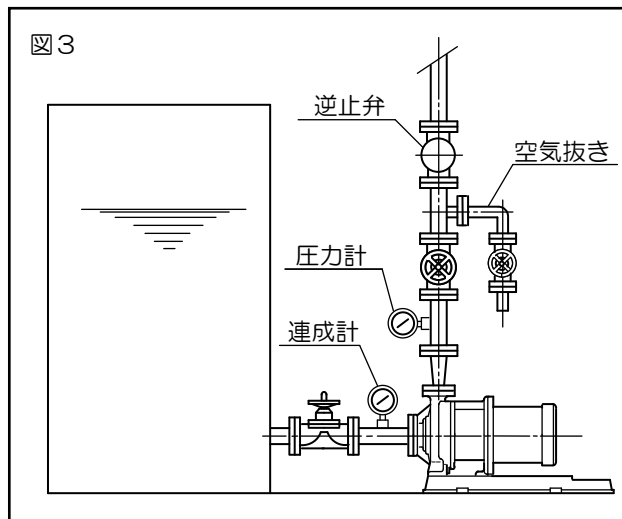
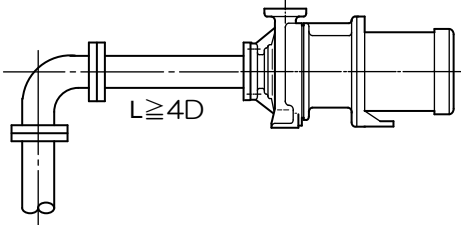
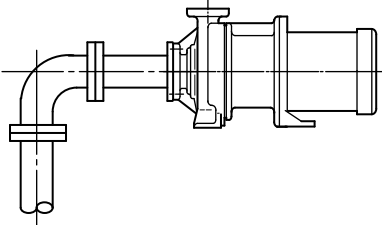
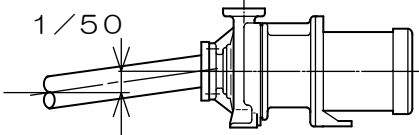
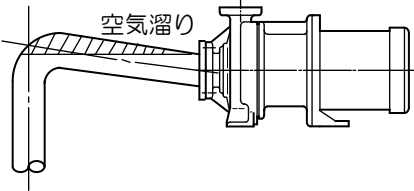
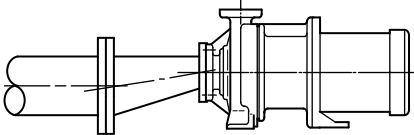
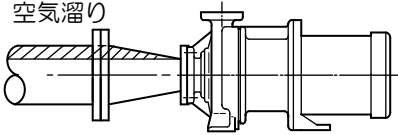
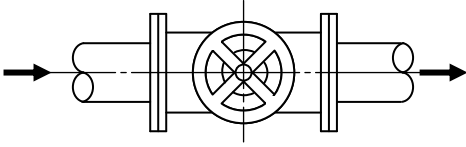
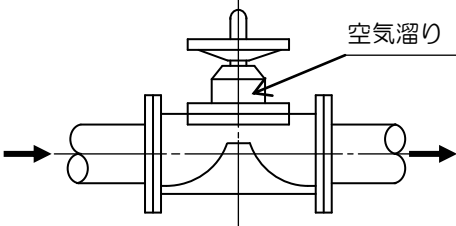


図2 吸込配管

	良	不良
垂直曲管		
勾配配管		
異径配管		
仕切弁取付方向		

5. 試運転

1. 開始時の注意

- (1) 配管を接続する前に、口径ワッペンが剥がされていることを必ず確認して下さい。
- (2) 電動機の外扇ファンカバーを外し、外扇ファンが軽く回るかを確認して下さい。
- (3) 配管工事中に吸込管内に入ったゴミやスケールなどが、ポンプ内に流れ込んで致命的な故障を起こす事がありますので、吸込槽や吸込管を掃除して下さい。
- (4) 電動機の回転方向を確認して下さい。(方向はケーシングカバーと電動機に指示されています。)



警告

軸受（ベアリング）材質が SiC の場合の回転方向の確認は、呼び水後か電動機を外して確認して下さい。瞬時運転でも破損の原因となります。

- (5) 吸込側配管にある弁は、必ず全開にして下さい。
- (6) ポンプを完全に満水するために呼び水をして下さい。呼び水は吐出側配管等を利用して、空気を追い出して下さい。空気抜きが困難な場合は、電動機の外扇ファンを逆方向に手回しの反動を利用して3～4回繰り返して下さい。
- (7) 吐出弁を全閉にした状態で始動を行って下さい。
- (8) ポンプが完全に呼び水されている場合は、吐出圧力は瞬時に上昇します。その後、吐出弁を徐々に開いて、使用圧力もしくは吐出量に設定して下さい。



警告

空運転および呼び水不良状態での運転は、致命的な故障の原因となりますので、呼び水作業には十分注意を払って下さい。
吐出圧力が降下した場合はポンプを停止し、呼び水不良の原因を突き止めて下さい。

2. 運転中の注意

- (1) 音響の点検
吸込管から空気や固形物を吸込むと異常な音響を発生し、振動を伴うことが多くあります。吸込側圧力計の指針の変動は、空気混入の場合が多いようです。
- (2) 振動の点検
キャビテーションあるいは、据付け不良による振動等には、事前の注意が必要です。
吐出量の調整は必ず吐出側の弁によって行って下さい。吸込側の弁は絞らないで下さい。

- (3) その他
吐出圧力・吸込圧力・流量・電流値等に注意して下さい。これらが異常に変動したり、下がったりする時は、吸込側に固形物が詰まったり、空気を吸込んでいることが多くあります。

3. 停止の注意

- (1) 通常、ポンプは吐出弁を全閉にしてから、停止しなければなりません。吸込側を先に閉めるとキャビテーションとなり、焼付事故を起こすことがあります。
- (2) 押込状態で運転する場合は、停止後吸込弁を閉じておいて下さい。
- (3) 運転中、停電によって停止した場合は、まず電源スイッチを切ると同時に手で吐出弁を閉じて下さい。

4. 休止中の注意

長期間運転を休止する場合は、ポンプ内の液を抜いて下さい。冬期にはポンプ内の液が凍結すると、体積膨張により亀裂が生じたり、破壊することがありますので特に注意がいらいます。

5. その他の注意

- (1) 配管に取付けられている予備ポンプは、時々運転して、いつでも使用できることを確認しておいて下さい。
- (2) ポンプの空運転は、軸受の焼付けとなり、致命的な事故につながりますので、絶対に行わないで下さい。
- (3) 規定の吐出量・揚程でお使いください。極少・過大吐出量での使用はおやめ下さい。

6. 保守点検

ポンプを円滑に運転していただくために、定期点検を実施し、記録として保管することをお勧めいたします。
下記に一般的な保守内容を示します。

1. 日常点検

下記項目の点検および記録をとってください。

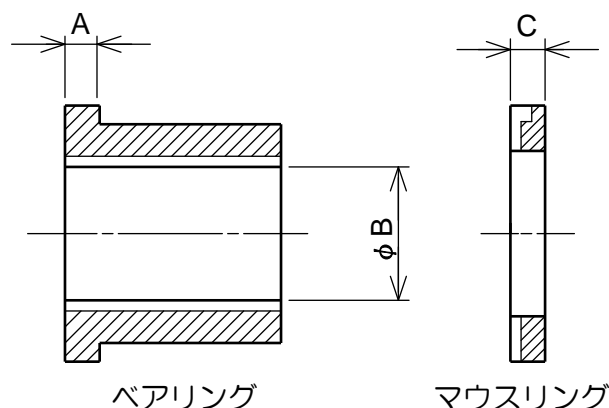
- (1) 吸込槽水位
- (2) 吸込・吐出圧力
- (3) 電動機の電流と軸受温度
- (4) 異常音・異常振動
- (5) フランジ・ガスケット等からの漏洩

2. 定期点検

アウトーマグネットとインナーマグネットは、吸引力（磁力）が非常に強いので金属類には特に注意してください。
また、主軸・各ベアリング類・各スラストリングの取扱いにも十分注意してください。

3. 軸受の摩耗限界

	A	φ B	C
出荷時	8.0	36.0	10.0
交換時	7.0	37.0	9.0



部 品 名	点 検 事 項	対策・交換時期
ケーシング	接液部の付着物	洗浄
	ガスケットの腐蝕・膨潤	不良の場合交換
	クラックの有無	「有」の場合原因確認
インペラ	羽根間の付着物・異物混入	洗浄
	入口部の接触の有無	「有」の場合原因確認
インナーマグネット	リアケーシングとの摺動の有無	「有」の場合原因確認
	端面・内筒面のクラックの有無	「有」の場合原因確認
	接液部の付着物	洗浄
	ベアリングの摩耗状態	異常の場合原因確認
	ベアリングの冷却通路の詰まり	洗浄
リアケーシング	インナーマグネットとの摺動の有無	「有」の場合原因確認
	接液部の付着物	洗浄
	リアスラストリング摩耗状態・摺動跡・クラックの有無	「有」の場合原因確認
主軸	クラックの有無	「有」の場合原因確認
	軸受部の摩耗状態	異常の場合原因確認
アウトーマグネット	リアケーシングとの摺動の有無	「有」の場合原因確認
電動機軸受	アウトャークと電動機軸との取付け状態・止めネジの緩み	正常位置に締め直す
	異常音の有無	2年に1度

7. 分解

1. 分解における注意点

- (1) 分解にあたっては、必要な保護具（ゴム手袋・保護眼鏡等）を着用して下さい。



警告

ポンプ分解中もしくは分解後に、薬液の人体への付着による薬傷等の危険があります。

- (2) 分解した主軸・軸受はキズや破損を起こしやすいので、取扱いには十分に気を付けて下さい。
- (3) インナーマグネット・アウターマグネットは強い磁力を帯びていますので、金属粉の付着や金属類への吸着には、十分気を付けて下さい。



警告

インナーマグネットもしくはアウターマグネットが金属類に吸着された時、指が挟まれると重大なケガをする場合があります。

2. ポンプ分解準備

- (1) 足場の確保等、作業環境の安全を確認して下さい。
- (2) 電動機の誤操作を防ぐために主電源を切り（OFF）、作業関係者以外が電源をいれないように、注意札等にて作業中であることを表示して下さい。



警告

ポンプは回転機械であり、ポンプ分解時に回転部が露出状態で電源を入れますと、作業者が重大なケガをする場合があります。

- (3) 吸込・吐出配管の弁を全閉にし、作業関係者以外が誤って弁を開放しないように、注意札にて作業中であることを表示して下さい。
- (4) フランジボルトを緩める前にゴム手袋・保護眼鏡等を着用し、ポンプのドレン部よりポンプ及び配管内の液抜きを行って下さい。



警告

薬液が外部に飛散し、人体に付着すると、薬傷を起したり、重大なケガをする場合があります。

液抜き作業手順については下記に一般例を記載しますが、使用液・作業環境を十分に検討し、作業を行って下さい。

- 1) ポンプドレン部を開放する。
- 2) 吐出側のポンプフランジ接続部分のボルトを均等に少しずつ緩める。この時ドレン部より液が流れ出したら、液が止まるまで作業を休止し、液が完全に止まるまで安全な位置まで退避して下さい。



警告

- ①吐出側のポンプフランジ接続部分のボルトを一度に緩めると、ドレン部より液が飛散し、作業者が重大なケガをする場合があります。
- ②液抜き作業時にドレン部正面での作業は危険ですので、作業位置を確認しながら作業を行って下さい。

- 3) 前項 2) の作業を繰り返し、ボルトが完全に外れた状態になった時、ネジ回し（マイナスドライバー）等で配管を浮かし、完全に液抜きが完了していることを確認して下さい。

3. 分解

- (1) ブラケット固定ボルト（104-39）を外して下さい。



- (2) ケーシングボルト（104-01）を外して下さい。



- (3) 電動機を取付けたまま、ブラケット（028）を後方ヘリアケシング（060）が見えるまで移動させて下さい。この時、ブラケット全面の左右のネジ穴にケーシングボルトもしくは、分解・組立ボルトをセットし、左右均等に締付けると少しずつ移動します。十分な安全対策が出来ない場合は利用して下さい。



- (4) リアケーシングボルト（104-54）を外して下さい。



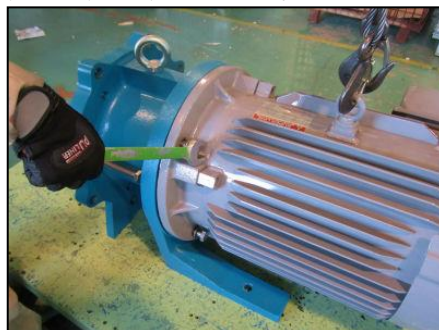
- (5) リアケーシング（060）を後方へ引き抜いて下さい。



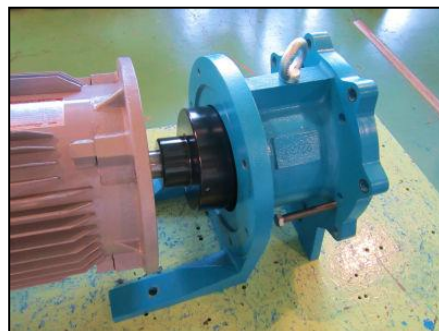
- (6) インペラ・インナーマグネット（013+058~9）も後方へ外して下さい。



- (7) 電動機のフック部をチェーンブロック等で吊り上げ、電動機が落下しないような状態にし、モーターボルト（104-23）を外して下さい。



- (8) 電動機を引き抜いて下さい。



- (9) アウターマグネット止めネジ（104-46）2ヶ所を緩めて下さい。



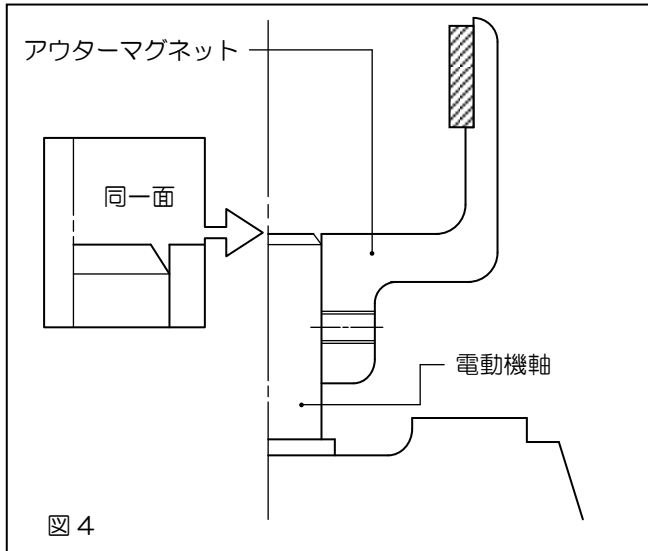
- (10) アウターマグネット（057）を外して下さい。



4. 組立

ポンプの組立手順は、分解の逆の手順で行って下さい。

- (1) 電動機にアウターマグネットをセットし、アウターマグネット止めネジを締付けて下さい。この時、図4のようにアウターマグネットと電動機軸の端面が同一になるようにして下さい。



- (2) ブラケットに電動機を挿入し、モータボルトを締付けて下さい。
- (3) ポンプ主軸にインナーマグネット（インペラ付）を挿入し、リアケーシングにケーシングガスケット（101-01）をセットした後、ケーシングへはめ込み、リアケーシングボルトで締付けて固定して下さい。（リアケーシングボルトは手締め程度にして下さい。）
- (4) ブラケットを前方へ移動させ、ケーシングボルトを $55.0\text{N} \cdot \text{m}$ ($5.6\text{kgf} \cdot \text{m}$) で締付けて下さい。この時、分解時に利用した分解・組立ボルトは必ず取り外して下さい。



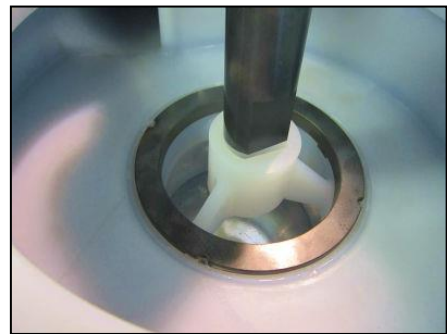
警告

インナーマグネットとアウターマグネットは磁力により、お互いが吸引されるので、指詰めに注意して下さい。

- (5) ブラケットのブラケットボルトを締付けて下さい。
- (6) 組立完了後、電動機の外扇カバーを外し、外扇が手で軽く回るか確認して下さい。

5. 主軸の脱着方法

シャフトサポートの穴より六角レンチ(φ5 程度)等を挿入し、主軸に当てた状態でハンドル部を樹脂ハンマーで少しづつたたき出して下さい。また、取付ける場合には、主軸のキリカキ部分を合わせ、主軸を樹脂ハンマーで少しづつ挿入セットして下さい。



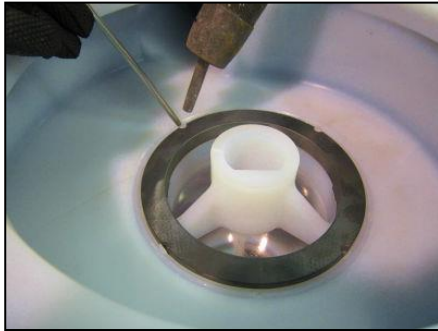
6. ベアリングの交換方法

ベアリングを取り外す場合は、インペラ側より丸棒（φ45 程度）を挿入し、インペラセットリング&ベアリングを同時に樹脂ハンマーで少しづつたたき出して下さい。また、取付ける場合は、インナーマグネット側よりインペラセットリング、ベアリングの順にキリカキ部を合わせながら、樹脂ハンマーで少しづつ挿入して下さい。この時、樹脂ハンマーでベアリングを傷つけないように、打撃箇所を布等で覆って作業を行って下さい。



7. フロント／リアスラストリング・マウスリングの交換方法

各部品は、3 又は 4 箇所溶融ツメでセットされており、交換の際は熱風溶接機でこの部分を溶融させ、ツメを起こした後、取外してください。取付ける場合は、各部品のキリカキ部を合わせ、熱風溶接機にてツメ部を溶融させ、丸棒で押しつぶし、しっかりと固定させてください。



8. シャフトサポートの交換方法

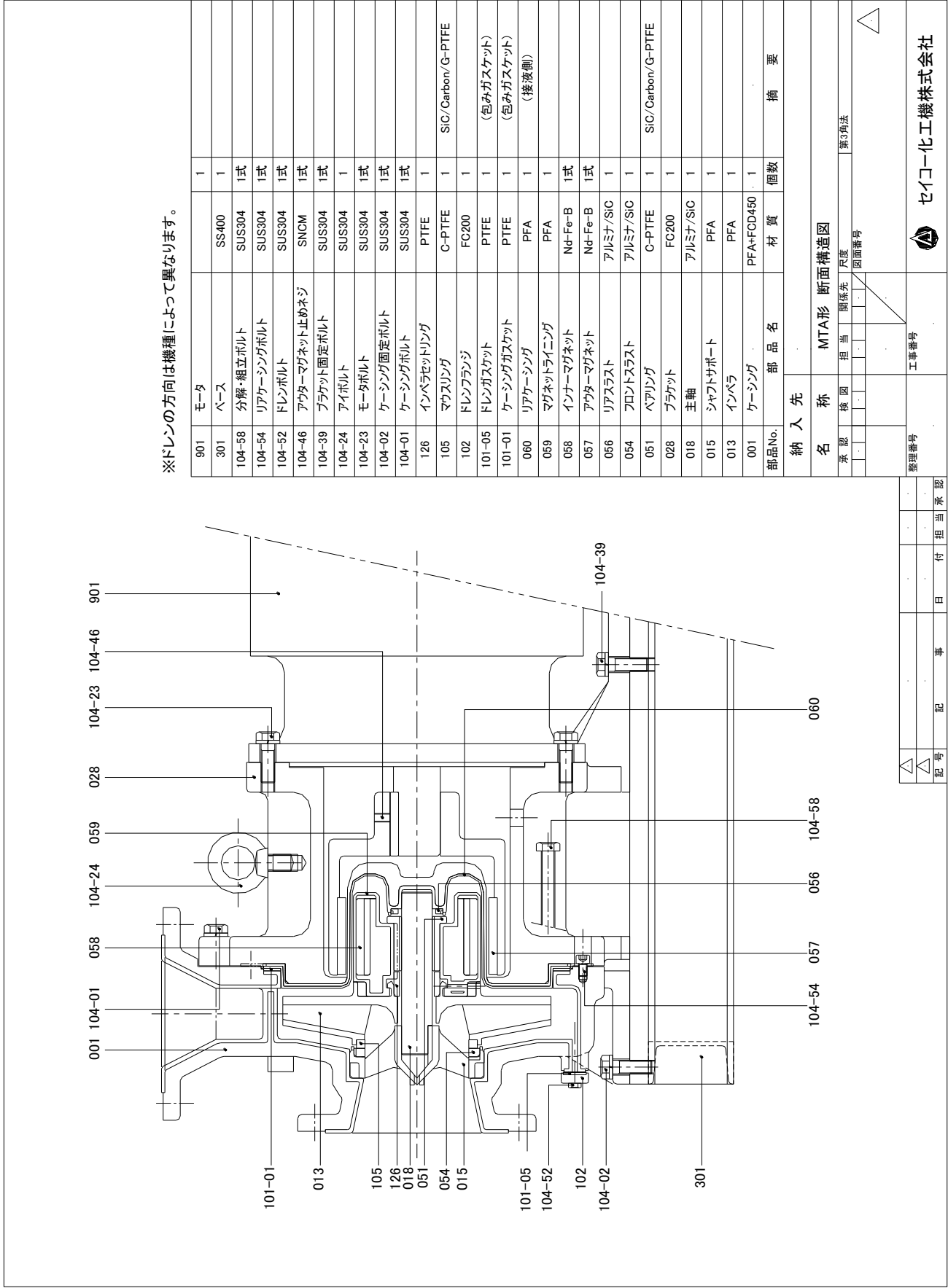
MTA 形は主軸固定部であるシャフトサポートの取替えが可能です。シャフトサポートは、ケーシングに溶接で固定されていますので、取外す場合は旋盤等で溶接部を削除して外してください。セットする場合は、補強リブ方向を確認の上、挿入し、ほぼ全周を溶接してください。（この作業は、弊社に依頼することをお奨めします。）



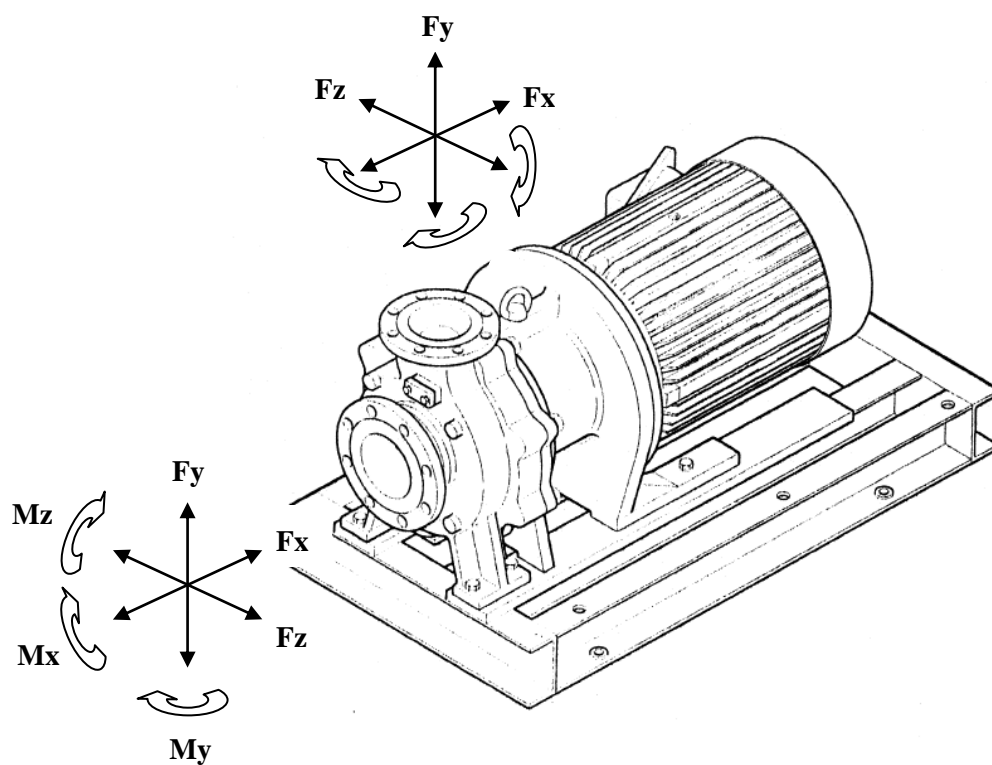
8. 部品注文について

部品注文される場合は、P 1 1 の構造と部品名を確認の上、形式・部品名称・機械 No（ブラケット側面の銘板を参照してください。）を注文先もしくは弊社までご連絡ください。

9. MTA 形断面図



10. 配管許容荷重



形 式	吸込側						吐出側					
	力(N)			モーメント(N・m)			力(N)			モーメント(N・m)		
	F_x	F_y	F_z	M_x	M_y	M_z	F_x	F_y	F_z	M_x	M_y	M_z
MTA-101	2410	1205	2009	1832	1225	921	960	1930	1607	980	1470	735
MTA-125	2470	1235	2058	1881	1254	941	990	1980	1646	1009	1509	755
MTA-150	2530	1265	2107	1930	1283	961	1020	2030	1685	1038	1548	775

11. 事故現象と原因

